

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成30年10月31日
＜第7号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第15回講座「外国語活動・外国語科の指導力の向上・模擬授業を通して」 「特別支援教育におけるキャリア教育」

平成30年9月29日（土）に、外国語活動・外国語科の目標、内容、指導のポイントについて理解すること及び、児童・生徒一人一人の障害の状況を踏まえて、生活上の困難を克服できる資質や能力を高め、キャリア発達を支援し、社会的な自立を育てる教育について理解することをねらいとして、第15回講座を行いました。今回の講座は、連携大学に公開した講座であり、当日は約100名の参加がありました。

小学校コースでは、国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 直山 木綿子先生を講師に招き、外国語活動・外国語科における教師のはたらきかけを中心に、小学校における外国語教育の在り方や学習指導要領に対応した教材について講義・演習を行いました。塾生が、外国語教育の必要性や4月から教壇に立つための準備や心構えについて学ぶことができる活動としました。

特別支援学校コースでは、特別支援教育におけるキャリア教育をテーマに、東京家政大学 教授 半澤 嘉博先生を講師に招き、児童・生徒の社会的な自立を目指したキャリア発達の観点から、各教育活動を有機的に結び付けることの必要性についての講義・演習を行いました。

【塾生の感想より】

- ・ 外国語活動・外国語科の授業において、母語を介在せずに、目的や場面・状況から、新しい語句の意味を推測させるためには、児童が自然と外国語に触れる機会を設けることが必要である。また、児童が「学びたい」という意欲をもって学習に臨めるように、児童の考えを理解して、学習場を設定することが重要であると学んだ。
- ・ 特別支援教育のキャリア教育においては、地域・家庭・学校が連携を図ることが重要であり、積極的に交流及び共同学習等で通常の学級との交流の場を設ける必要がある。そのため、障害のある児童・生徒が活躍できる場や成功体験を積み重ねることができる場の設定を行っていかねばならないと感じた。

●企業等における体験活動

企業等での就業体験を通して、社会人としての責任ある態度を身に付けることをねらいに、7月上旬から9月上旬にかけて、3日間の企業等における体験活動を実施しました。今年度は、16の企業・事業所に御協力をいただきました。

塾生が、各企業等で企業理念やマナーに関する研修、店舗での接客、納品作業、発注業務等の様々な体験を通じて、社会人としての責任や相手の立場に寄り添うことの大切さなどを学ぶ機会としました。2月の修了時報告会において、体験活動のまとめとして、各自の取組について情報交換を行います。

【塾生の報告書より】

- ・ 従業員の皆様から学んだ「誠心誠意」の姿勢は、児童・保護者・地域の方々との信頼関係を築く上で大切なことだと考える。信頼される教師になるために、児童の実態を踏まえた学習指導、保護者との連携、地域の方々との折衝など、「誠心誠意」の姿勢をもって接することができるようにしたい。
- ・ 自分の仕事に対して、どれだけの人に影響を与えているか自覚し、誇りと責任をもって取り組むことの大切さを学んだ。このことは教師としての心構えにも通ずるものであると認識を深めることができた。



－就業体験の様子－

●第16回講座「授業実践研究」

東京教師養成塾では、今年度から、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、授業づくりや協議、指導主事等からの指導・助言を通して、教科等の指導法や授業実践の実際について理解を深めることを目的として、授業実践研究を実施しています。各班で代表者1名が教師養成指定校で研究授業を行い、それを他の班員が参観し、授業後に協議を行うといった形態で10月から12月にかけて行います。この授業実践研究で行う授業について、塾生は、8月から各班で準備を進めてきました。今回の授業実践研究を通じて、塾生が、日々の授業をつくり上げていくことの重要性を意識し、今後の授業により磨きをかけることができる活動としています。



－授業実践研究の様子－

◆ 子供のよさを引き出す ―よさを見いだし、意識付け、伸ばす― ◆

東京教師養成塾教授 齋藤 辰雄

子供のよさ・可能性を引き出す教育を進めていくことが求められています。改めて考えてみると、子供の「よさ」とは何を指しているのでしょうか。この「よさ」が具体的になれば、後はそれを引き出し伸ばすための方法論です。

一般的に「よさ」と言われると、プラス面のことであろうとおおよそ察しがつきますが、「よさ」を「周りの人から肯定的に認められ、多くの人に共感される、その子供がもっている各種の魅力である」と捉えてみると分かると思います。大切なことは、周りの人たちから認められるよい面（力）であるということです。また、「可能性」とは、そのよさになり得る芽であると捉えると分かりやすいと思います。

子供には、「よさ」がたくさんあります。本人も周りの人も気付いていない「よさ」が隠れています。「可能性」も然りです。それでは一体どのように引き出せばよいのでしょうか。それは、教師の目です。子供を見つめ、見取る力です。教師自身の引き出し（棚）を多くしていくとともに、児童・生徒理解の力がとても大切になります。子供を理解し、よさや可能性を発見し、それを子供にも意識付けしながら、引き出し、伸ばし、育てていくための教師の力です。毎日の児童・生徒理解の積み重ねがよさや可能性を引き出す道なのです。

今、塾生は伸長期段階に入り、子供のよさ・可能性を見付け引き出すために、特別教育実習で多くの子供たちと関わり、児童・生徒理解に徹して教育実践に励んでいます。

◆ 学習指導における評価 ◆

東京教師養成塾教授 坊野 美代子

学習指導における評価は、「子供たちにどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えることが重要です。そして、学習指導と学習評価のPDCAサイクルによる学習指導の見直しや個に応じた指導の充実、学校教育活動の組織的改善が求められています。

学習評価におけるいくつかのポイントを、以下に整理してみます。

(1) 学習評価の4ステップ

- ①個々の授業のねらいが、どこまでどのように達成されたか。
- ②子供たち一人一人が、前のねらいからどのように変化しているか、より深い学びになっているか。
- ③子供の学びの評価に留まらず、学習・指導方法の改善に発展・展開させる。
- ④学習評価の改善を教育課程の改善や組織運営など学校教育全体の改善サイクルに位置付けていく。

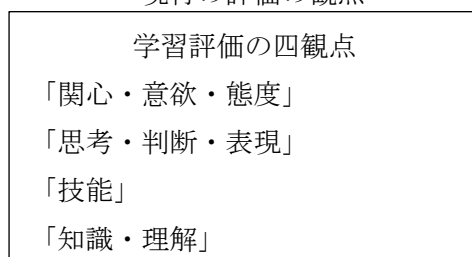
(2) 学力の3要素

平成19年の学校教育法等の一部を改正する法律により、学校教育を行うに当たり、生涯にわたり学習する基盤が培われるように、「学力の3要素」として「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」が示されるなど、学力観の転換が図られた。

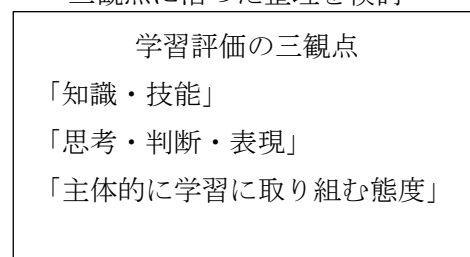
(3) 観点別学習状況の評価

観点別学習状況の評価（目標に準拠した評価）とは、目標に基づいて評価規準としての観点別の目標を設定し、その実施状況の評価するもの。

現行の評価の観点



三観点に沿った整理を検討



中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（平成30年10月23日）

新学習指導要領の実施に向けて、確かな指導と評価により主体的な児童・生徒の育成ができるように、今後とも塾生の指導に当たってまいります。